



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第42回例会(5月24日)
平成25年5月31日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 藤村 文昭
幹 事 佐藤 重昭
会 報 福田 荘介
クラブ直通電話 TEL(653)5682

奉仕を通じて平和を Peace Through Service..... R会長 田中作次



島山節子様

菅原章子様

ゲスト卓話

「ポランの広場」の活動報告

岩手県青少年自立支援センター「ポランの広場」

盛岡地区父母会 会長 島山 節子 様

「ポランの広場」相談員 菅原 章子 様

1 はじめに

この度は、昨年に引き続き、「ポランの広場」の活動をご支援いただけることに深く感謝申し上げます。私たちの、岩手県青少年自立支援センター「ポランの広場」が盛岡ロータリークラブ様から助成を受けることができるようになって、今年で6年目になります。不登校やひきこもりに悩む青少年の自立支援活動に大切に使用させていただきます。

今日は私たちの日頃の活動を報告する機会を得ましたので、昨年1年間の活動の報告と不登校・ひきこもりの青少年の現状をお話したいと思います。

2 不登校・ひきこもりの青少年たち

内閣府の調査によると、平成24年度、年間30日以上欠席した「不登校」の児童生徒は、11万7千人を超えていました。岩手日報(H24年2月7日版)によると、岩手県内の2010年度の公立学校の「不登校」の児童生徒は1402人で、“小学校138人(前年度比1人増)、中学校789人(58人減)、高校475人(32人減)”とあります。2010年度のこの時は中一ギャップと言われ、中学1年に急増しましたが、2013年の今は、高校中退が増え高一ギャップといわれます。

ひきこもりとは、厚生労働省によると、通学も仕事もせずに6カ月以上家にいて、他人と関わる外出をしていない場合をいい、内閣府の

2012年の調査では70万人といわれます。これには、当人、家族の問題だけでなく、社会的背景があると考えられますが、社会の未来に関わる大きな問題になっています。

3 「ポランの広場」の活動

高度成長期以後の1970年代から、登校拒否・不登校の問題が表面化し、1980年代後半にはいじめによる子どもの自殺が急増しました。これらの問題が出現した時期は、受験競争が激しくなった時期と重なります。ポランの広場(当時、岩手県不登校を考える父母会)は、26年前(1987年)、問題になり始めていた不登校の親子の支援をしようと結成されました。その後、若者のひきこもりが目立つようになったことから、県父母会は2001年に若者の居場所として「ポランの広場」を開所しました。それ以来、「ポランの広場」は、活動の拠点として、多くの悩む親子に利用され、今日に至っています。

4 ポランの広場の活動の主な柱

「ポランの広場」は毎週火、金、土曜日に開いて、次の4つのことを活動の柱にしています。

- ①不登校・ひきこもりに悩む親子の相談室
- ②社会に出るのが困難な若者の居場所(ポランの広場)の開所
- ③不登校・ひきこもりに悩む親同士の交流の場(定例会)と若者同士の交流の場(若者会行事)
- ④不登校・ひきこもりへの理解と対応につい

での学習・講演会

①高校中退の若者を含めて居場所にやってくる若者には早く社会参加ができるように、②家から出ることが出来ない青少年の父母たちの悩みには定例会で話を聞き合い、父母の悩みに寄り添い、③講演会・学習会を開くことで不登校・ひきこもりへの理解を深めるなど、さまざまな活動を行っています。

5 相談活動について

スライドに2012年度に「ポランの広場」で行った相談数を示しました(表1)。相談員が、不登校に悩む親子や、家の外に出られないため(ポランの広場にも来ることができない)ひきこもりの若者の親の相談に対応しています。相談内容は様々で、電話での相談も多くなっています。

2012年度

相談数 211(18)	不登校 26(7)	ひきこもり 76(6)	その他 109(5)
	面談 12(4)	面談 48(6)	面談 31(3)
	電話 14(3)	電話 28(0)	電話 78(2)

2011年度

相談数 167(68)	不登校 70(24)	ひきこもり 34(9)	その他 64(5)
-------------	------------	-------------	-----------

表1 ポランの広場 2012年度相談数(新規)

昨年は、不登校の相談数は減っていますが、現代は、いじめによる生徒の自殺や、部活における体罰、親の経済的貧困、虐待などにみられるように、子どもたちにとってとても過酷な社会だと思しますので、学齢期の子どもの不登校が減少しているとは思えません。最近の学校には、スクールカウンセラー、特別支援学級のコーディネーターなど、複数のサポーターが“登校しぶり”の子どもたちに対応していることが、「ポランの広場」など外部の機関に相談におとずれる数が減少した一因と考えられます。しかし、学校で複数のサポーターがかかわることが、本当に子どもたちを救うことにつながるのかどうかは疑問に思われます。何故なら、学校でのサポートはどうしても学業が中心で、本当の意味で不登校の子どもの存在が受容されているわけではなく、不登校になっている子どもは、心の奥底にある自己肯定感がとりもどせないまま、

“サポートされることで”なんとか学齢期を乗り越えようとしているのではないかと思います。その時不登校にならずにすんでも、高校生になってから、卒業後専門学校に入ってから、あるいは就職後に、他人との交流ができなくなり、ひきこもってしまうことが起こっているような気がします。

昨年は不登校に比べてひきこもりの相談がめだっていました。ひきこもりの場合、自宅を訪問して相談に乗ることもあります。部屋から出ないので本人に会えずに、親とだけ話して帰ることもあります。それでも、経験的に、第三者の訪問があるだけで、ひきこもっている若者へ良い影響があります。長年にわたってひきこもっている場合には、家族だけでは無理で、訪問相談員など、第三者のかかわりが必要です。昨年は、長年ひきこもっていた40歳代の息子が、バイトを始めて、その後正規の職に就く事が出来たと報告してくれたお母さんもいました。

「その他」と言うのは、家にひきこもっているのではないけれど、ポランの広場にやっきて、自分の就労のこと、家族のことなどを相談する若者で、就労したいのですが、時間がかかっているという状態で、この状態の若者の相談も増加しています。社会体験の機会を増やして、自立へむけて背中を押してやりたいと感じています。

6 居場所について

居場所としての利用状況ですが、2012年度は「ポランの広場」を年間で147日開きました。利用者ののべ数は835人でした。1日平均で5~8名くらいの若者がやってきます。若者は、「ポランの広場」に来て、おしゃべり、ゲーム、インターネットなどで、思い思いの時間を過ごしながら、若者同士、相談員あるいはボランティアスタッフと交流しています。交流を経験することで、人間関係に感じる恐怖や不安を解消し、他の人間とつきあえるようになっていきます。ポランの広場に来ること自体が大切な社会経験になっています。

「ポランの広場」は10時開館ですが、若者はさまざまな時間にやってきます。10時に来る

若者がいる一方で、お昼過ぎに来たり、午後の3時過ぎに来たりです。途中で帰るのも自由です。車で親に送り迎えしてもらわなければ来ることができない青年もいますし、雨の日には来ない若者もいます。若者や相談者が来て来なくとも週3回「ポランの広場」を開くこと、開所日の「ポランの広場」にはいつも相談者やスタッフがいることが若者にとって大切なのだと考えています。

7 若者会行事

2012年度は、毎月1回若者を中心とした行事を行いました。スポーツや登山、料理を作って食べる会、カラオケ大会などが好評です。参加者は毎回約20名になります。若者会の行事にはBBS (Big Brothers & Sisters) のメンバーになっている盛岡市内の大学生も参加してくれます。その他、2011年度から毎月1回絵本の読み聞かせをするようになり、2012年度から毎月1回、金曜日の午後、手縫い袋作りで手芸の時間を持っています。作品を父母会のお母さんたちに購入してもらい、ふれあいランドの「ふくしまつり」で販売もしました。居場所での交流や様々な行事の経験の積み重ねが若者を成長させていると感じています。

8 ひまわりプロジェクト参加

2012年度は若者会と盛岡地区父母会と合同で、子どもの権利のための国連NGOのDCI (Defense for Children International) 日本が行っている「ひまわりプロジェクト」に参加しました。福島市の障がい者施設、シャロームから種を送ってもらい、玉山区日戸の畑でひまわりを栽培し、秋に収穫した種を、放射能汚染されたため、ひまわり栽培ができなくなって、ひまわり油を絞れなくなった福島に送り支援しました。送った種は、暮にひまわり油となって届きました。こんなふうに社会的につながる活動が、若者の自己肯定感をそだてるのではないかと感じています。

その他の活動の活動として、1) 発達障がいについての学習会、2) 県内の各地区父母会の情報交流センターとして、「ポランの広場通信」を毎月発行、3) 宮古市の県立大学宮古短大で

“岩手のつどい” (11月) (80名参加) を行い、県内の父母と交流などを行いました。



2012年9月 ひまわり収穫

9 今後の活動について

- 1) 新たな相談ルーム (ナナック 4F の一隅、火曜日のみ) を開設します。
- 2) 若者の社会体験の機会を増やします。
- 3) 不登校：ひきこもりに悩む親子が孤立することのないように、父母会の存在を広く宣伝します。

10 ポランの広場の財政

ポランの広場の財政は県内各地区の父母会員、約160名からの会費と年間一口5000円の維持会員 (継続的寄付会員) 約80名からの維持会費、その他、盛岡ロータリークラブ様などからの寄付で運営しています。2012年度はIBC「通リゃんせ基金」で、パソコン一式をいただくことができました。

11 終わりに

「ポランの広場」にやってくる若者は、発達障がいがあるとされる子もふくめて、どの子どももみんな、成長していけると実感しています。子どもたち、若者たちが社会に巣立っていくためには、その家族を含めて社会的なサポートが必要です。「ポランの広場」は、その社会的自立をサポートして行きたいと活動しています。私たちの活動を支えて下さっている盛岡ロータリークラブのみなさまのご理解とご支援に深く感謝申し上げます。

第2回ゴルフ練習会開催!

5月12日日曜日、薄曇りのメイプルカントリークラブで、今年度第2回目のゴルフ練習会が15名の参加のもと開催されました。メンバー向けの難しいグリーンの中、優勝したのは長野隆行会員でした。今年の初打ちとは思えない活躍で、ニアピンも獲得し、皆さんから喝采を浴びていました。ベスグロの近藤駿会員はご夫妻で参加され、ご夫人も10位飛び賞でした。

親睦委員会最後の行事に、多くの会員のご参加を頂きありがとうございます。

親睦委員長 吉江信博



例会報告

第42回例会
平成25年5月24日(金)

於 川徳 12時30分 開会点鐘

- ・司会 藤村文昭会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・ゲスト 畠山節子様(岩手県青少年自立支援センター「ボランの広場」盛岡地区父母会会長)、菅原章子様(同相談員)
- ・ビジター 筑紫勝磨さん(東京R.C.)
- ・入会祝 福田泰司君。
- ・幹事報告 佐藤重昭幹事
終了後臨時理事会開催

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡西R.C.=5月30日(木)は特別

休会。

【ニコニコBOX】

- ◆村井研一郎君…持病を克服し、80歳登頂に三浦さんの快挙に感銘して。
- ◆長野隆行君…5月12日に行われた第2回ゴルフ練習会で、凶らずもハカラズモ優勝してしまいました。今シーズン初めてのラウンドでしたが、パートナーの藤村会長、平井次期会長、田中バスト会長との和やかなプレイのお蔭とします。色々ご苦勞をお掛けした吉江親睦委員長さん、ありがとうございました。因みにスコアは聞かないください。
- ◆飯塚肇君…福田泰司様 ご栄転おめでとうございます。3.11の大震災の時、沿岸の妊婦を盛岡に避難させる支援活動に対して物資のご

寄付をお願いしましたところ、鉄道の復旧という大事に取り組みながら、早速にお米300kgをお届けいただきました。お米は、妊婦のご家族やその後盛岡に避難してきた被災者の方々に広く配ることが出来ました。改めて御礼を申し上げますとともに、今後一層のご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。

- ◆千葉隆史君…ボランの広場様 本日は卓話いただきありがとうございました。益々のご発展をお祈り致します。

●メークアップ

盛岡北R.C.=熊谷(祐)君。盛岡西R.C.=坂本・吉田(育)・市丸・中山君。盛岡滝ノ沢R.C.=佐藤(義)君。クラブ委員会=千葉・星・熊谷(隆)・長野・米内君。

出席報告

会員数/67名

出席数/43名

出席率/57.37%

前々回修正出席率/82.53%

プログラムの
お知らせ

- ・5月31日(金) ゲスト卓話 内田桂子様(盛岡少年鑑別所 所長)
「盛岡少年鑑別所 報告」
- ・6月 7日(金) ゲスト卓話 福島康子様(グッドアクション(株) 代表取締役)
「(仮) 遺品整理士として」
- 14日(金) 第4回クラブアッセンブリー
- 20日(木) ターミネートパーティー (21日例会変更)

●本号編集担当/嘉本 孝志

●次号編集担当/福田 泰司